

インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報に記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) トウヨウダイガク	フリガナ) ケイエイガクブ	フリガナ) 中野ゼミナール
東洋大学	経営学部	中野ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) ナカノゼミビーチーム	フリガナ) ツバキ ヒロト	4	無
中野ゼミ B チーム	椿 裕人		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)

研究テーマ (発表タイトル)

外国人を呼び込もう～銭湯貸切ツアー～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

近年、お風呂カフェや大江戸温泉物語などといったスーパー銭湯が注目を集めている。その一方で、昔ながらの銭湯を見かけなくなった。そこで、私たちは銭湯に注目しました。現在多くの外国人が銭湯に興味を持っていることが分かり、外国人客を増やすことで銭湯に活気を取り戻すことを目的としました。その中で、銭湯側は外国人に対応できないこと、外国人側は文化などの違いから銭湯に行けないこと、双方に課題があることが分かり、これら双方の課題を解決しようと提案しました。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

現在、公衆浴場業というのは自家風呂の普及により、浴場数、入浴者数ともに大幅に減少しています。その理由としては、①利用者数の減少②経営環境の悪化③施設・設備の老朽化が挙げられます。しかし、そのような中で、外国人が日本に留学してきたときに行ってみたいところとして銭湯が注目を集めています。また、今後東京オリンピックに向けて外国人客が増えることが予想されるため、この外国人客を取り込むことで浴場業界の衰退を止められるのではないかと考えられています。

3. 研究テーマの課題

現状で挙げたように、外国人客に注目を集めている銭湯ですが、実際に銭湯を訪れたことのある外国人はあまり多くないことが分かりました。その理由としては、銭湯に行く機会がないこと、裸になるのが恥ずかしいこと、銭湯のマナーについて何も知らないことなどが挙げられました。また、銭湯側は日本語の話せない外国人客への対応が出来ていないというような問題があることが分かりました。このように、双方に問題があり、外国人客を取り込めていないことが本研究の課題として挙げられます。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

そこで私たちが考えた提案は「銭湯貸し切りツアー」というものです。内容としては、銭湯を貸し切りさせてもらい、外国人客限定で入浴をしてもらうものです。イベントの内容としては、まず外国人には、レクチャーを行わずにお客さんとしてアメニティ等の購入を行ってもらいます。そして、アメニティ購入までの中で、銭湯側の対応で分からなかったところを外国人側から聞き出し、今後外国人が来た時の対応の参考にしてもらいます。その後、脱衣場からはレクチャーをしながら銭湯に入ってもらいます。その中で、もし何か分からないところがあった場合は私たちに質問をしてもらいます。また、こちら側から見ていて気になった場合はその都度、銭湯の入り方についてレクチャーしていきます。

イベント終了後外国人にインタビューをし、銭湯の入り方について分からなかったところなどを私たちがまとめ、今後外国人客が来た時の対応に生かしてもらうというものです。

この提案は銭湯側、外国人側双方にメリットがあります。銭湯側としては、外国人に対応できていない銭湯に対して対応を学ぶ場となるのと同時に、イベントを行うことで外国人客が増える可能性があること。外国人側としては、銭湯に行きたいけど行きづらいと考えている外国人に対して入浴の機会を与えられることです。さらに、実際の銭湯でマナーを学ぶことで今後、銭湯に行きやすくなるのではないかと考えました。日本の文化に触れる機会にもなると思います。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

現状から銭湯が外国人に注目を集めていることは分かったが、実際に外国人が銭湯を訪れたことがあるのか外国人 30 人にアンケート調査を行いました。その結果 23 人が銭湯を訪れたことがないことが分かりました。その理由としては、銭湯に行く機会がないことや裸になるのが恥ずかしいこと、銭湯のマナーについて知らない、などが挙げられました。

更に、銭湯側は何か外国人に向けて対策を行っているのか質問するために、インタビュー調査を行いました。

概要 場所：光明泉(7月10日 13:00~14:00)

千代の湯(7月13日 15:30~16:00)

福の湯(7月15日 14:30~15:30)

「外国人客は増えていますか」「外国人客の対応が出来ているか」という質問をしました。その結果、3 銭湯とも外国人客は増えていることが分かりました。また、外国人客への対応については、日本語の通じない外国人客への対応に困っているこおり、更に今後東京オリンピックが控えていて外国人客が増えることが予想されるため対策を考えていきたいということが分かりました。

そこで、私たちは実際に課題解決策で挙げた提案を実施しました。

イベントを開催する銭湯は、電話とメールを使い連絡をとり、営業時間前 2~3 時間貸し切りさせていただける銭湯を探しました。イベントに参加してもらえる外国人については、まずインスタグラムを開設し、不特定多数の方にイベントについて認知を広めました。更に、東京都内にある日本語学校にメールをし、ポスターの掲示と学校内で告知のお願いをしました。

企画詳細 日時 2017年8月29日(火)13:00~14:30

場所 光明泉

参加人数 1名

この企画後、企画について光明泉幸田様に伺ったところ、「外国人客の方が実際にどういう風に思っているのか聞きたい機会になった。今回出た問題には、シャンプーの表示を変えたり、シャワーの使い方について掲示したりと対応したい。」という意見を頂きました。

また、参加して頂いたカナダ出身 19 歳男性にもこの企画について伺ったところ、「うるさいという銭湯のイメージが大きく変わって、リラックスできる場所だということが分かった。貸し切りにしてくれたことで、恥ずかしさもなくて来やすかった。銭湯マナーについてその都度教えてくれたことで、安心して入ることができた。」という意見を頂きました。

このイベントを終え、いくつかの問題点が出ました。まず、始めに銭湯の入り方についてレクチャーをしてしまうと、銭湯側が学ぶ機会がなくなってしまうということです。これについては、入り口からアメニティなどの購入までをレクチャーせずに行ってもらいます。終了後、外国人の方から分からなかったところを聞き出し、銭湯側に伝えることで今後外国人客が来た時に生かしてもらいます。

次に出た問題点として、脱衣所でレクチャーを行い、自由に銭湯に入るようにしても恥ずかしさから入浴まで進めないことです。これについては、自分たちがレクチャーをしながら一緒に入浴することで、日本の文化としてこれが普通だということが伝わり、恥ずかしもなく入浴できるのではないかと考えました。

上記のように 1 回目のイベントで出た問題点を改善し、イベントの 2 回目を行いました。

企画詳細 日時 2017年9月17日(日)13:00~15:00

場所 殿上湯

参加人数 3名

この企画を終えた後、殿上湯原様に伺ったところ、「本当はこのような企画は銭湯側自身で行っていかねばならないことだと思う。しかし、実際にこのような企画が行えていない中で、企画をやっていただけるのはありがたい。今回出た問題に対しては、今まで気づけなかったこともあるので、銭湯の良さを消さないように考えながら対応していきたい。」という意見を頂きました。

また、参加して頂いた中国人 25 歳女性に伺ったところ、「ずっと銭湯に行きたいと思っていた。しかし、マナーについて知らないことが多いため行けなかった。今回、来たことでマナーについて学ぶことが出来、あまり難しくないものだと分かった。銭湯に行きたくてもマナーなどが分からずにいけない外国人は多いと思うので、このようなイベントを行ってもらえるのはありがたい。」という意見を頂きました。

更に、28 歳女性からは、「ヘアゴムを持参したり、ハンドタオルの使い方など、自分たちが知らなかったマナーを知ることが出来た。今回銭湯の入り方について学べたので、また銭湯に行ってみよう」という意見を頂きました。

上記のように、私たちが考えた提案で銭湯側に対しては対応について学んでもらうことが出来、また外国人客には銭湯を訪れようきっかけにしてもらうことが出来ました。

6. 結果や今後の取り組み

今後の取り組みとしては、この企画を継続して開催し、外国人に向けてこの企画の認知を広めていきたい。また、現在、銭湯のマナーについて英語で対応できるのが 1 名であり、あまり多くの人数を一度に呼ぶことが出来ないなど問題もあるので、企画を行っていく中で、この企画に協力してもらえる人材を探していきたいと思う。

7. 参考文献

・電通 HP(2015)「ニュースリリース 電通、「ジャパンブランド調査 2015」を実施」

<http://www.dentsu.co.jp/news/release/pdf-cms/2015066-0622.pdf> 2017年9月2日閲覧

・厚生労働省(2013)「衛生行政報告例 平成24年度衛生行政報告例の概況」

http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei_houkoku/12/dl/gaikyo.pdf

2017年6月9日 閲覧

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経BPマーケティング社様に作製していただく大会結果HPに本企画シートは掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを4ページ以内におさめて、提出してください